

立命館土曜講座
ナレッジ・デリバリー

京都を飛び出し、
福井にやってきます！

第1回 福井県白川文字学ゼミ講座



講師

立命館大学 文学部 教授

小椋 秀樹 氏

演題

「常用漢字はどうやって
決まっているの？」

1992年3月に立命館大学文学部を卒業後、大阪大学大学院に進学。1998年10月、国立国語研究所採用。1999年～2004年まで『日本語話し言葉コーパス』の構築に従事し、その後、2006年～2011年まで『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の構築に従事した。この間、2003年～2005年まで文化庁文化部国語課専門職を併任した。専門は、コーパス日本語学。コーパスを活用した近現代語の語彙・表記の研究。また、2年間、文化庁に勤務したことから、国語施策についても関心を持ち、それに関連する研究も行っている。

漢字に関する国の施策としては、「常用漢字表」(文化庁)、「学年別漢字配当表」(文部科学省)、人名用漢字(法務省)、JIS漢字(経済産業省)といったものが挙げられます。複数の施策があり、所管する官庁も複数にまたがっています。このうち、「常用漢字表」は、我が国の漢字政策の基盤と言えるものであり、極めて重要なものです。

「常用漢字表」は、「当用漢字表」(1946年)を改定し、1981年に実施されたものです。その後、2010年に改定されました。「常用漢字表」の改定に当たっては、文化庁が様々な漢字調査を行いましたし、国立国語研究所も構築途中の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を基に様々なデータを審議資料として提供しました。

今回は、国立国語研究所の語彙調査、コーパスを基に、「常用漢字表」改定前の漢字使用の実態を把握した上で、2010年の改定について評価、検証を行います。

日時 令和5年7月1日(土) 13:30～15:00 受付13:00～

場所 福井県立図書館 多目的ホール ☎ 0776-33-8860

福井県福井市下馬町51-11

※ 福井駅東口バス乗り場から無料のフレンドリーバスが出ています。

定員 60名 受講無料(要申込) ※参加記念品あり

お申し込み・お問合せ先 福井県教育庁生涯学習・文化財課 担当 宮越

TEL:0776-20-0559 FAX:0776-20-0672

★福井県ホームページ 白川文字学 申込フォームから申込可



↑こちらからも
お申込み
できます。